

# 愛媛県総合科学博物館魅力向上戦略 概要

## 第1章 戦略の基本的考え方

- 開館から30年が経過し、人口減少など社会情勢や科学技術の急速な発展、教育・交流に関するニーズなど地方博物館を取り巻く環境が大きく変化。
- 施設や設備の老朽化が進む中、30年先を見据え、中長期的な視点で果たすべき役割と方向性を定め、施設整備を中心とした取組みを推進する指針として作成。  
※3年ごとに進捗の評価等を行い、状況等を踏まえ内容を見直す。

## 第2章 総合科学博物館の現状と分析

入館者数の推移などの博物館の現状を整理するとともに、県民アンケートや来館者への聞き取り等を通じ、現時点の課題を明確化。

### ○来館状況と県民の声

① 入館者数の推移	・平成6年開館。科学に関する深い理解と探求の機会を提供し、これまで、 <u>延べ600万人以上が利用</u> 。近年は年間17～18万人程度で推移。
② 来館動向	・高速道路 IC 近くの好立地、 <u>県内中心に瀬戸内圏全域など幅広く来館</u> 。 ・ <u>県外からの来館者は約1/3を占め、リピート率は7割以上</u> 。 ・ <u>家族連れの来館が入館者の約8割を占めるが、急速に進む人口減少により、現状の利用比率のままでは10年程度で来館者が半減すると推計</u> 。 ・ <u>入館者の約8割が常設展示(恐竜等)を観覧</u> 。常設展示への関心が高い。
③ 県民と科 博利用者の 声	・ <u>県民の3割超が来館経験なし</u> 。 ・過去に来館し、現在は来館しなくなった理由は「 <u>子どもの成長・家庭環境の変化</u> 」が最多。 ・ <u>何度も来館したくなるには、常設展示のリニューアルをはじめ、話題性のある企画展やプラネタリウム放映の実施等を望む声が多い</u> 。 ・ <u>大人対象の科学講座や講演会の充実等の要望も多い</u> 。

### ○施設の現状・課題

① プラネタ リウム	・ <u>投影機などの機器が耐用年数を経過し不具合が頻発</u> 。交換部品の入手も困難で、 <u>安定した投影維持が難しくなっている</u> 。 ・ <u>観覧座席のリクライニング機能の故障が増加</u> 。家族シート・カップルシートなど <u>多様化する観覧スタイルに対応しきれていない</u> 。
② 常設展示	・ <u>開館以来大規模改修を行っておらず老朽化・陳腐化が進行</u> 。また、自然や産業に関する愛媛の魅力を含め、 <u>最新の展示構成に至っていない</u> 。 ・ <u>既存の企画展示室では、床面積が不足し魅力的な大型巡回展の誘致が困難</u> 。また、 <u>スゴ技など県内産業の魅力発信のためのスペースが不足</u> 。
③ 収蔵庫	・ <u>全ての分野で収蔵庫が飽和状態</u> 。特に大型資料の受入れに支障有。 ・ <u>14万点の資料をデジタル公開しているものの、全収蔵資料の半分程度にとどまる</u> 。
④ 施設全体	・ <u>屋外を含め施設・設備が老朽化し、快適な観覧環境の提供困難</u> 。 ・ <u>プラネタリウムの事前予約や多様な電子決済に未対応等、デジタル化の遅れ</u> 。 <u>ショップやレストランの利便性やサービスの充実が必要</u> 。

### 第3章 総合科学博物館の理念と方針

博物館の現状、課題、分析結果を踏まえ、今後進むべき方向性を明確にする理念（スローガン）と、博物館が目指す5つの活動方針（アクションプラン）を設定。

#### (1) スローガン

**あつめる つなげる 未来をひろげる**

**～好奇心をはぐくみ 新たな海原に漕ぎ出す 愛媛のサイエンスシップ～**

※愛媛の豊かな海を背景に、社会課題を「新たな海原」と表現。「サイエンスシップ」は、好奇心と科学的知識を道しるべに、力強く漕ぎ出し、未来を切り拓く姿になぞらえている。

#### (2) 科博の目指す活動方針（アクションプラン）

①郷土愛とシビックプライドを育む愛媛の魅力発信	②人々が集い活躍する全世代交流空間の提供
③地元産業の求心力と活力の向上	④博物館資料を利活用した、交流人口の増加
⑤科学的知識をベースにした県民の命と環境を守る地方コア	

### 第4章 総合科学博物館魅力向上戦略

今後、博物館の理念や方針を実現するため、施設整備によるハード面の機能強化と併せて事業を展開していくことが不可欠。

一方、施設整備には多額の予算を要するため、緊急性を踏まえ大型事業ごとに優先度を設定。社会情勢の変化や財政状況等を勘案しながら、今後10年程度を目安にフェーズごとに段階的に実施。

#### (1) 戦略における基本プロセス・優先度

フェーズ1 緊急の危機回避と機能更新	
プラネタリウム・天文事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界最大級のドーム径を有する強みを生かすため、高精細投影が可能な機器に更新し、多彩なソフト事業を展開。</li> <li>座席等を改修し、カップル・子育て世代等の多様なニーズや、ユニバーサルデザインを取り入れた快適な観覧環境を提供。</li> </ul>
フェーズ2 早期の集客力向上	
展示室の更新1 (大型企画展示室の新設・産業資料の移設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中四国にはない国内最大級の巡回展を誘致できる大型企画展示室を設置し、新規来館者の獲得と交流人口増大を図る。</li> <li>産業エリアに、新たな産業資料等の展示スペースを確保し、若者が県内企業を理解し交流を深める場所を提供。</li> </ul>
フェーズ3 中核機能の本格的再構築	
展示室の更新2 (常設展示の大規模更新) 収蔵庫拡充と新しい資料保存活動1 (常設展示内収蔵)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然から産業の創出・変遷までを融合し、愛媛県の魅力を体系的かつわかりやすく伝えるとともに、最新の科学的知見に基づく自然災害やエネルギー問題等に対応した内容へ展示を更新。</li> <li>幼児から高齢者まで多様な利用者が楽しみ交流する場を創出。</li> <li>新たな産業展示や企業連携による次世代人材育成の場の提供。</li> <li>展示室内に来館者が収蔵状況や資料整理作業等を見学できるコレクションナリウム(魅せる収蔵庫)を整備。</li> </ul>
施設整備と機能向上・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>館内のWi-Fi環境や入館促進サービス(事前予約等)を充実。</li> <li>物販等の強化を図るほか、SNS等のデジタル技術を活用しソフト事業や施設情報などの各種取組みをきめ細かに情報発信。</li> </ul>
フェーズ4 地域連携の深化と広域展開	
収蔵庫拡充と新しい資料保存活動2 (地域へのライト収蔵)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等の空きスペース等を活用した資料収蔵の検討・整備を進めるほか、資料の整理や活用を行う人材の育成を図る。</li> <li>収蔵資料のDX化を進め、一般利用しやすい形で公開。</li> </ul>

#### (2) 戦略の進展に応じた数値目標

県内外から多様な来館者を呼び込み、関係人口・交流人口を増加させることにより、今後30年にわたり現在の総入館者数の水準を維持することを目標に設定。

目標総入館者数	年平均19万人維持(2055年頃まで)
---------	---------------------